

原因：高濃度大豆乳

症 状：口腔違和感、嘔吐、じんま疹

経 過：

味噌、醤油、とうふなどの大豆食品はふつうに摂取していたが、高濃度大豆乳を飲んだところ、口腔違和感があり、その後全身にじんま疹が広がった。

解 説：

シラカンバ花粉症の主要抗原の一部が大豆の抗原と交差をおこし口腔アレルギー症候群（OAS）を起こすことがあります。通常 OAS の症状は軽いのですが、大量に摂取をすると全身症状をきたす場合があります。特に花粉症が重症であるほど症状は強い傾向があります。

対 策：

健康食品ブームで最近よく売られている高濃度大豆乳での事例です。花粉症（シラカンバ花粉）がある場合、高濃度大豆乳を摂取する場合は少量摂取してみて安全であれば徐々に増量してください。

2. 歯科材料アレルギー治療の健康保険講座（その4）

ご質問に答えて

ご質問をいただきましたので、あくまでも一診療家の私見として、アドバイスさせていただきます。僅かなりとも、参考になればよいのですが…。

まず、いただいた御質問から。

《その歯はねじれて生えていて僅かですが虫歯にしてみました。差し歯にすれば歯並びも綺麗にできるから、差し歯の土台差し込みのために神経を取ると歯科医師から言われました。私はアレルギーを持つ患者の立場で何かすべきですか？》

とても、良い質問です。

アレルギー患者さんにとって案外、コレ「伏兵」になるのです。コレとは、つまり、歯の神経の治療です。

神経を取った後、歯の内部に残される空洞をそのまま空っぽにしておくと、早晚、その歯が顎の骨の中で、次の病気に進展することがあります。そうなりにくくするため、清潔に、ある材料を空洞に詰めて完全密閉を図る治療が一般的です。

通常、この際に用いる材料として健康保険医は亜鉛化合物を使用します。しかしながら、亜鉛アレルギーさんには使いたくない。まれにはカルシウム系、ごくまれには銀を含むもの、その他のものがあります。ところが、採算割れの材料もあり、現実には自由な材料選択がやはりできないに等しい…。歯科開業医の悔しい思い、皆さん分かって下さいますか…？

この記事でも重ねてお願いします。

健康保険で採算割れしない歯科アレルギー治療制度の確立を求め、改善要求署名活動をぜひともよろしく願い申し上げます。

いずれの場合も材料が体に合わない、その歯だけが浮いたような違和感がいつまでも残ったり、咬むと痛いなどの症状に悩み続けることがあります。その症状で、他医に診てもらっても、そのうちに治るとか、原因不明だと言われることが殆ど。それでも、「痛いものは痛いんだから、何とか！」などと歯科医院で、粘れば粘るほど、気のせい、遂には、アタマのせいにされていってしまう…。

アレルギーの次はアタマだって？冗談じゃない！そこで、転ばぬ先の杖
》今月のまとめ《

ひとつ：差し込みのためだけなど、便宜的な目的だけで、健全な神経を安易に取るのは、「貴方のカラダの自然破壊」と心得よ、できるだけ避けるべし。

二つ：どうしても取らざるを得ない時には、神経に詰める材料がアレルギーを起こすかも知れないリスクについて充分に考えて同意すべし。

特に亜鉛アレルギーさん！

最悪には、その歯を抜かなければならないこともある。比較的敏感な前歯では症状が出易いので美容との問題には特に注意を払うべし。

三つ：そうでなくとも、歯の神経を取るとは、防腐処置こそすれ、その歯は言わば「立ち枯れ木」、「歯のミイラ」として残すことに同じ、くれぐれもその儂さ脆さ、お忘れ無きよう…。

四つ：必ず貴方の治療担当者である歯科医師と話し合うべし。

医師資格を有する者のみが薬の処方箋を書きうると同じく、歯科材料の選択や設計は、歯科医師資格者のみに許された職権である。歯科医師抜きに、スタッフとだけの話し合いで決めるべからず。

さてはて、皆さん、少しはお役に立ちましたかな…。

さりとても

～枯れ木に花を咲かせやしょう～

以上、

お口の「花咲かジジイ・」がお答えしました。

3. 最近のアレルギー事情（その1）

～食物アレルギーと「IgG」抗体～

アレルギー反応を起こす抗体は、ご存じの通り「IgE」抗体です。一方「IgG」抗体は、ばい菌やウイルスなどの感染症から体を守るための抗体です。

実際には、体に入ってくるどんな異物に対しても、IgG抗体は作られます。ダニやカビ、食べ物に対しても、健康な人は、ある程度の量のIgG抗体を持っているのです。

アレルギーの根本治療として、免疫療法が注目されています。かつて「減感作療法」と言われていた古典的な免疫療法は、アレルゲンを繰り返し皮膚に注射する方法で、日本でもスギ花粉やハウスダストに対する免疫療法を積極的に行っている専門家はたくさんいます。免疫療法がうまくいった患者さんには、血液中にス

ギ花粉やハウスダストに対する IgG（正確には、IgG4）抗体ができている事が確認されます。

IgG 抗体は、アレルギー反応を起こす IgE 抗体の働きをブロックする「阻止抗体」という作用を持っている、と考えられています。

最近私たちも、牛乳アレルギーの患者さんと、牛乳は症状なく飲める方の、牛乳成分に対する IgG 抗体を検査してみました。

牛乳アレルギーで完全除去をしている方は、牛乳に対する IgG 抗体が検出されません。一方、症状なく牛乳を飲める方では、高い IgG 抗体が検出されました。

IgG 抗体は、実際にその人が摂取している食品の量を反映して、誰にでも作られる抗体、とも理解されています。

最近、血液中の IgG 抗体を測定して、除去食を勧められた、という患者さんの話を聞くことがあります。

正常な人が、その食品を食べていれば陽性になってあたりまえの抗体ですから、抗体が高い人に除去食を勧めることは、科学的根拠もなく、アレルギー専門家の中でも受け入れられていない考え方です。

除去食をするかどうかは、必ず主治医の先生とご相談の上、判断して下さい。

あいち小児保健医療総合センター アレルギー科 伊藤浩明

4. 理事のつぶやき 『中西里映子』

一才から重症の食物アレルギーとアトピー性皮膚炎を患い、中学校までもお弁当を持参していた娘が、今年の一月に成人式を迎えました。成人式の日、すっかり大人の女性になった振袖姿の娘を見て、母親として感無量……。あつという間だった 20 年を思いおこし、胸がいっぱいになりました……。

初めての子どもで子育てもドキドキ……。なのに、アレルギー疾患があり、どうしよう……。と試行錯誤を繰り返し、ただ一生懸命だけの毎日でしたが、高校生になるころにはすっかり肌も綺麗になり食物アレルギーもなくなりました。随分と回り道をしてしまったように思いますが、キラキラと輝き養護教諭を目指して大学生活を楽しんでいる娘を見ていると、健康にここまで命を育ててくれてありがとう!! という、ただそれだけのことに感謝したくなり、娘にそっと伝えました。

最近では、食物アレルギーの治療も、経口負荷テストをして正確に診断をし、必要最小限の除去をするという治療になってきましたが、当時アトピー性皮膚炎が重症だった娘はなかなか解除が進まず長く除去をしていました。校内で一人だけお弁当持ちだった娘は本当に辛かったと思いますし、いじめにもあいましたが、なんとか乗り越えてくれました。

今思うと、当時の私自身のアレルギーに関する知識も随分とお粗末で、こどもの気持に寄り添ってやることもできていませんでした……。もちろんこの 20 年の間に医学も格段に進歩しましたが……。今私が持っている知識があったら、きっともっと早く治してやることができただろうに……。と残念でなりません。

ご縁があってアレルギー支援ネットワークの事務局を担当させていただいてますが、医師や研究者、専門職種の方など、アレルギーに関する問題を解決したいと熱心にとりくんでいらっしゃる方々ばかりに囲まれて、忙しい中にも幸せな毎日を過ごしています。

先日私どもが主催しました「アレルギーっ子のフェア」における講演会も、宇理須厚雄先生の食物アレルギー、松永佳代子先生のアトピー性皮膚炎、三田哲郎先生のアレルギーと漢方薬治療、更にはアレルギーっ子の防災対策と、どれも最新情報満載でとても勉強になりました。

これからも、子育て中のお母さんの気持ちに寄り添うことができるように、また、花粉症などアレルギー体質はそのまま継続しています娘のためにも、科学的な知識に基づいて賢くアレルギーとお付き合いすることができるよう、私も学び続けたいと思います。

困ったこと心配なことがありましたら、ひとりで悩まずに、いつでも事務局にご相談くださいね。

5. アレルギーの会の活動紹介 『海部・津島食物アレルギーの会』

こんにちは。「海部・津島食物アレルギーの会」です。

本会は、給食対応の現状を知って、「このままではいけない」と思い、支援ネットワークのスタッフの方や知り合いの看護師の方に相談にのってもらい、平成 18 年 4 月に発足しました。

海部郡・津島市近郊のアトピー性皮膚炎・食物アレルギー・ぜん息を持つ子供（0～10 歳）とその親の、現在 19 組で活動をしています。会費は年間 1500 円です。月 1 回、定例会をし、親子同士の交流・情報交換・行政への要望書提出・クリスマス会などを行っています。会報は不定期の発行となっています。

クリスマス会は、アレルギー支援ネットワークの中西さんに、教えていただいた米粉のクッキー作り。子供たちに型抜きをしてもらい、初めて米粉のクッキーを作る方・初めての型抜き、思っていたより固かったみたいですが、ペロっと食べてしまいました。親子共に、楽しく過ごせ、笑顔で帰っていただけて本当に良かったです。

あっという間に 2 年が経とうとしています。色々ありましたが、声を出さないと伝わらない事が本当に多くある事を実感しています。声に出しても難しい事ばかりですが、子供に係る方は、子供の事が好きな方が多いです。少しずつでも、アレルギーについて理解してくれる人が増えるよう、アレルギー大学・支援ネットの情報・東海アレルギー連絡会等で、情報収集や勉強をさせて頂き、声に出していきたいです。

アレルギーっ子同士・親同士のつながりを大切に、これからも家庭だけでなく、園・学校生活が笑顔で安心して過ごせるように、活動を行っていこうと思っています。

お問い合わせ・・・T e l 0567-95-7237（17 時～21 時）

F a x 0567-95-7237（7 時～21 時）鹿嶋まで

6. 会員からみなさまへ

はじめまして。私は、10 歳の息子の母です。

息子は、5 か月のとき、乳アレルギーとわかり、それからアレルギーとつきあっています。

今まで、家庭で乳製品すべての除去を行ってきましたが、幼稚園に入り集団生活の中で、いろいろな問題が出てきました。アレルギーをもつ方たちの話や、情報を得ることができるかと思い、今回、アレルギー支援ネットワークに入会することにしました。

アレルギーと、今後も長いつきあいになりそうなので、気長に行きたいと思いません。

よろしくお願いします。

ナガヤ

7. 事務局の窓辺から

繋がり ～web 会議～

アレルギー支援ネットワーク事務局の園木です。

毎月 1 回のスタッフ会議の外に、昨年 11 月から不定期ではありますが、1 か月に 2 回程度の web 会議を行うようになりました。だいたい夜 9 時過ぎの開始で、2 時間くらいかかります。

この web 会議は、テレビ電話のようなものですが、現在は、参加しているメンバーの誰もカメラをつけていないので、お互いの様子は画面には映りません。同時に 10 人までが会話できます。

デモ、やっぱり直接会っているわけではないので、同時に話してしまうと、会話として成り立ちません。相手の反応が確かめにくいので、自分が話していてもいいのか。話は通じているのか。一人で喋っているような感じすら受けてしまいます。

会議が進むうちに、船を漕いでいそうな人に「起きてる?」と質問したり、誰かが何かを飲み込む音が聞こえたり。また、ヘッドホンの奥から、「ただいま～」の声、家族の会話、食器の音なども聞こえてくることがあります。

そして、声だけの会議が、長時間になると我が家では、私の気づかないうちに「誰もいなくなって」しまいます。私一人リビング・ルームに取り残されるのです。子どもたちは「また、母さんが・・・」と思っているのでしょうか。ごめんなさい。

月 1 回のスタッフ会議では、分かりにくかったことや確認ができなかったことも、この web 会議のおかげで少なくなってきました。ありがたいことです。

また、スタッフ会議であれ、web 会議であれ複数のスタッフで集まる機会が増えると、お互いの距離感が変化します。私は、今いい感じの距離感だと思います。

そして、新たなスタッフが参加すれば、また変化するでしょうね。

眠たいこともありますが、私はこの会議の時間を結構楽しんでます。これからも、この web 会議を有効に使い、繋がりの方が更に深まっていくことを望んでいます。

8. 2008 年「第 3 期アレルギー大学」日程の変更など（最新版）

1. 第 3 会場を中部地区市民センターから、あさけプラザに変更します。
第 3 会場 あさけプラザ

〒510-8028 四日市市下之宮町 296-1 電話 059-363-0123

三重県

No.6 調理実習 5月31日午前・午後は、第3会場あさけプラザです。

2. 次の講座の会場が第1会場から第3会場に変わります。

三重県

No.3 講座 5月25日午後

3. 次の講座・実習の日程が決まりました(変更なども含む)。

静岡県

No.14, 15 調理実習は、7月26日午前・午後、27日午前・午後に変更します。

愛知県

No.37, 38, 41 の特別講座 9月7日(日)午前・午後(会場:ウィル愛知/予定)を
9月15日(月・祝)午前・午後(第9会場:名古屋国際会議場)に変更します。
尚、午後は第1講演会場(会議室221)と第2講演会場(会議室224)です。

☆No.38 特別講座「保育・学校管理に必要なアレルギー対応」

受付:午前9時15分～

講師:宇理須 厚 雄さん

開演:午前9時45分～12時15分(質疑を含む)

会場:名古屋国際会議場(会議室224)

☆ 第1講演会場:名古屋国際会議場(会議室221) 受付:午後1時10分～
No.41 「学校・園のアレルギー事故にどう備える」

講師:伊藤 浩明さん 午後1時半～3時30分

「エピペン講習」メルク社 午後3時45分～4時30分

☆ 第2講演会場:名古屋国際会議場(会議室224) 受付:午後12時45分～
No.37 特別講座「食品表示をすすめる ～検知法・法制度～」

講師:太田 裕見さん(株)サントリー 午後1時15分～2時15分

講師:丹 さん 日生協 午後2時20分～3時20分

講師:本庄 勉さん 午後3時30分～4時30分

No.39 特別講座「親子クッキング」8月26日(火)午前10時～12時
(昭和生涯学習センター/予定)

親子1組: 大人1人と5才～小学生までの子ども1人

1組につき、材料代2,000円、定員:親子15組30人まで

4. 第9会場 名古屋国際会議場

〒456-0036 名古屋市熱田区西町1番1号 TEL 052-683-7711

《お問い合わせ》

NPO 法人アレルギー支援ネットワーク事務局
アレルギー大学担当 園木
e-mail : sonoki@alle-net.com
Tel/Fax : 050-1369-8790

9. ニュース・エトセトラ

A) 「アレルギー児の防災について 阪神大震災の教訓に学ぶ」を開催して

6433名の死者を出した阪神淡路大震災から早13年の年月が経ちました。13年前のあの日四日市市でも震度4の揺れを記録しました。後日、知人の大学生の娘さんが全壊したアパートの二階の部屋から逃げた時、階段を降りなかったという話を聞いてつぶれた一階部分を思い、大変なショックを覚えた記憶があります。

本年1月27日(日)に四日市市文化会館で あれるぎっこおひさまの会四日市主催の講演会～災害時にアレルギーの子どもたちは？東海・東南海地震にどう備えるか～「アレルギー児の防災について阪神大震災の教訓に学ぶ」を開催致しました。小さな会が設立以来初めて主催する講演会で準備段階から何かと不慣れなことばかりでしたが、アレルギー支援ネットワークや東海アレルギー連絡会や様々な方面の皆さんから沢山アドバイスを頂き、おかげさまでなんとか講演会を終えることができ、とても感謝しています。本当にありがとうございました。

今振り返ると、この講演会の準備を始めた当初は、講演者として、阪神大震災のときに食物アレルギーのお子さんを持っていたお母さんも来て頂く計画でいました。ところが、めぼしい方を探していたら、これが予想外に困難だということがわかり、のっけから暗礁に乗り上げていました。13年という年月を経て、当時神戸にあったアレルギーの会は殆んど姿を消し、震災後のアレルギー児の状態をアンケート調査した冊子「かもめだより」を作った神戸アトピーの会もなくなり、担当者も消息がつかめず、震災を体験したという食物アレルギーの子どものお母さんを見つけることは非常に困難を極めました。当時の貴重な体験を聞くことは無理なのかと何度も諦めかけました。

一人だけ、震災のときにまだお子さんが小さくて食物アレルギーだったという方を見つけたのですが、そのお子さんも今年大学受験を迎える年で、お母さんにもお子さんにもアナフィラキシーがあり、1月のセンター試験のすぐあとに三重まで講演に行くのは無理だということで断念したのですが、いろいろ電話でお話ししていたら、震災時に逃げる途中、隣人知人が瓦礫の下敷きになった家族を助け出そうとしていたら火が迫り、泣いて謝りながら家族がその場を離れたさまは、戦争より悲惨だったかもしれないという彼女の話に私も何度か言葉を失いました。つらすぎていまだにあの日の体験を語りたがらない体験者も多いと聞きます。

神戸の体験の風化をとっても心配したのはこの時でした。なので、余計に、今回の講演会で語れる人には一人でも多くの人に話してもらわねばと決心を新たに講演会の準備を進めた次第です。

当日の講演者は、浜松での全国交流会でも講演頂いたことがある、神戸医療生協いたやどクリニック院長の木村彰宏先生と、アレルギー支援ネットワーク理事栗木成治さん、四日市市役所防災対策課主幹 石田尚弘さんの三名でした。

木村先生からは、大震災の想像を越える惨状をお話し頂き、その中でアレルギー児の4割以上が症状を悪化させたこと、はっきりなしに襲ってくる余震による

ストレスで症状が悪化するという話や、乳アレルギーの赤ちゃん用のアレルギー対応の粉ミルクは一般には手に入らず困ったが、森永がオートバイ隊を作って、MA-1 を配って届けてくれたのでとても助かった話などをして下さいました。震災時に病院のカルテが焼失もしくは散逸し混乱したご経験から、それ以来、日々の診察時には個々のアレルギーの症状や飲んでいる薬や飲んではいけない薬などを、その都度、詳しく紙に書いて渡すようになったとの話がありました。そうすれば、万が一避難先でも、その病院にその紙を見せれば診察がスムーズに行われるからです。講演中先生が症例としてアナフィラキシーの前と後の症状変化を写真で説明して下さい、とても参考になりました。災害時にかかわらず、日常生活においても、劇症型や即時型アレルギー反応が起こったときに、その症状変化を機敏にとらえることが必要であることや、どういう症状が出たら、どう対応するかわかりやすかったです。

次に、栗木成治さんは阪神大震災のときの高槻のアレルギーの会の活動を例に挙げ、患者会が連携して助け合う必要性を説かれました。行政や医療機関に対しては、米はアナフィラキシーを起こしにくい食品であるので、備蓄食品の中に白米や米製品の割合を増やしてほしい旨や、現在進められている、災害時のアレルギー児の安否確認システムについての説明もありました。

石田尚弘さんはまず防災の基本に帰って、耐震補強や、地域での顔の見えるネットワーク作りの大切さを説かれ、四日市市の防災対策課は、06年に当会が提出したアレルギー児の防災に関する要望書を受け、今年度アレルギー対応のアルファ米を1500食備蓄した旨の説明もありました。

講演後、参加者全員に特定原材料25品目除去のアレルギー対応のアルファ米の試食をしていただき、アレルギー支援ネットワークの中西さんから説明をしていただきました。また、四日市市内の防災ボランティア団体 防災一座からも能登の復興支援の写真集や募金の呼び掛けもありました。

今回の講演会には患者会、四日市市の防災対策担当者、災害時のアレルギー対応物資の受け入れ窓口となる保健福祉部の担当者、市教育委員会、養護教諭、栄養教諭、市のアレルギー担当の保健師、流通業者、防災ボランティアコーディネーターなど90名の参加を頂きました。今回の講演会を1つのきっかけとして、アレルギー児はもちろん、様々な形で災害時に支援を必要とする方々へのきめ細かい対策が進められることを期待しています。

あれるぎっこおひさまの会四日市
代表 浅川

10. ホームページのお知らせから

A) アレルギーっ子の集い・フェアを開催しました！！

B) 最新版アレルギー大学開講のお知らせ

C) 「ぜん息」症状のある方へ モニター調査にご協力ください

http://www.alle-net.com/blog/event/2007/11/post_17.html

D) 「防災・救援ネットワークシステム」への登録のお願い

http://www.alle-net.com/blog/event/2007/11/post_18.html

11. ボランティア・スタッフ募集

ボランティア・スタッフを募集します

《アレルギー支援ネットワークでは、ボランティア・スタッフを募集しています》

- ・パソコン(ワード、エクセル、アクセス、お絵かきなど)が得意な方
- ・イラストなどを描くのが得意な方
- ・何でもやってみたいなという方
- ・イベント、フェアなどを手伝ってくださる方

まずは、ご連絡ください。お待ちしております。

詳しいことは、事務局までお問い合わせください。

【問い合わせ】NPO 法人アレルギー支援ネットワーク 事務局 (担当：中西)

FAX : 0564-55-5702 e-mail : info@alle-net.com

12. アレルギー支援ネットワーク一般会員募集します

《アレルギー支援ネットワークでは、一般会員を募集しています》

詳しくは、<http://www.alle-net.com/>

「支援ネットについて」の「会員の特典・入会書」をお読みください。

【問い合わせ】NPO 法人アレルギー支援ネットワーク 事務局 (担当：中西)

FAX : 0564-55-5702 e-mail : nakanishi@alle-net.com

★皆さんのお近くで、アレルギーに関心、興味をお持ちの方、アレルギーでお悩みの方がいらっしゃるようでしたら、「アレルギー支援ネットワーク・メールマガジン無料登録」をご紹介ください。

★メールアドレスの変更や、このメールマガジンに関するお問合せは、asn-mailmagazin@alle-net.com (担当：園木) までお願いします。また、今後、アレルギー支援ネットワークのメールマガジンを希望されない方は、お手数ですが、件名に「配信停止希望」と書いてメールをお送りください。(メールマガジン配信準備の都合上、配信停止手続きと行き違いでお届けする場合がございます、ご了承ください。)

★このメールマガジンのメールアドレスには、返信はできません。ご注意ください。

★メルマガの転載について

無断転載・転送を禁じます。アレルギーの会などが活動で使用する場合は、事務局担当(園木)sonoki@alle-net.com までお尋ねください。

★会員のみなさまからのご要望、お便り、アレルギーについての疑問などお寄せ
ください。

NPO 法人アレルギー支援ネットワーク

◇事務局◇ 444-0802 愛知県岡崎市美合町三ノ久保 13-3, 103

▽TEL/FAX : 0564-55-5702 ▽E-mail : info@alle-net.com

☆◆-----◆☆